

第65回 医学教育セミナーとワークショップ

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第65回医学教育セミナーとワークショップは、岐阜大学で開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

岐阜大学 医学教育開発研究センター 藤崎和彦

日程：2017年 7月21日(金)～ 23日(日)

会場：岐阜大学(医学部キャンパス)

2017
夏

- セミナー「Community-based Medical Education
： Longitudinal Integrated Clerkships」教育資源としての地域 **CD**
- WS-1 魅力的なIPEを作ろう
： IPEを学ぶオンラインコース+ワークショップ **TL** **Online Course+**
- WS-2 卒後臨床研修事務職員の役割 : ペーパーワークを越えて **ML**
- WS-3 臨床の場ですぐに活かせるフィードバック・スキル **TL**
- WS-4 医療現場での電話相談・報告 : スタッフの「苦手意識」を克服しよう **TL**
- WS-5 “アクティブ・ティーチング”で学習者を惹きつけろ！ **TL** **FELLOWSHIP**
- WS-6 症例検討会による行動科学・社会科学の教育 : 医療人類学の場合 **TL**
- WS-7 第13回 医学教育研究技法ワークショップ
「医療者教育の研究を立案してみよう」 **R**
- WS-8 看護における模擬患者参加型教育をデザインする
： SPを活用したシナリオ作成からリフレクションの方法まで **ML**
- WS-9 専門医の質ってどう測るの？ : 医療現場での評価 **A**

* 記号 (**TL** 等) は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。
詳細は、MEDCホームページ「アソシエイト・フェロシップのご案内」をご覧ください。

プログラム						
21日(金)	午後	WS-1～	WS-2～			
22日(土)	午前	～WS-1	～WS-2	WS-3	WS-4	
	午後	WS-5～	WS-6～	WS-7～	WS-8～	WS-9
	夕方	セミナー				
	夜	懇親会				
23日(日)	午前	～WS-5	～WS-6	～WS-7	～WS-8	

セミナー「Community-based Medical Education

: Longitudinal Integrated Clerkships」教育資源としての地域

CD

講師：高村昭輝（金沢医科大学）

日時：7月22日(土)17:15～18:30

概要：今、日本においては超高齢社会を迎えて、多数の健康問題を臓器横断的に総合的に診る医療者の必要性が医療の内容的にも経済的にも高まっている。では基本的な臨床能力を身につけるべき今の卒前教育、卒後の初期臨床研修で患者さんの日常ケアという視点の教育が十分に行われているだろうか？

世界的にも医学、医療の高度化に伴い、患者ケアの主たる場所が病院から地域の診療所、中小病院にシフトしてきている。その一つの解決策が地域基盤型医学教育－Community-based Medical Education (CBME) である。地域基盤型医学教育は一般的に臨床的診断決定がされる前から患者を診察し、臨床的診断決定がされた後も患者を診つづけることなくしてはならないとしている。そこで包括的に医療、福祉、保健分野を実体験しながら学ぶことが地域基盤型医学教育である。

そのような世界で行われている地域基盤型医学教育を研究データも踏まえたエビデンスから紹介し、特にLIC (Longitudinal Integrated Clerkships) の日本に導入されるための弊害、問題点などと合わせて発表する。

WS-1 魅力的なIPEを作ろう : IPEを学ぶオンラインコース+ワークショップ

TL

Online Course+

企画：川上ちひろ・今福輪太郎・恒川幸司 (MEDC)、前野貴美 (筑波大学)、鈴木一吉 (愛知学院大学)

日時：7月21日(金)13:00～17:00・22日(土)9:00～12:00 (7時間)

概要：オンラインコース+ワークショップでの学びを通じて、参加者の施設で合理的で効果的なIPE (多職種連携医療教育) を計画実施できることを目的にしています。今回のワークショップでは、魅力的なIPEを作ろう～IPEを学ぶオンラインコース～に参加されている方が集まり実際に顔合わせをします。

参加者が実際に行っている (行いたい) IPEを交流し、プログラム (カリキュラム) の目標設定や、そこで得られる学習者の学び、学習方略などのデザインを考え、実際の運営のコツなどを共有します。さらに、実際に参加者を学習者に見立てて、模擬授業を行います。※今回はIPEで用いる「シナリオ」については深く検討しませんのでご了解ください。

対象：魅力的なIPEを作ろう～IPEを学ぶオンラインコース～に参加されている方 (ワークショップのみの募集はありません)

WS-2 卒後臨床研修事務職員の役割 : ペーパーワークを越えて

ML

企画：青野真弓 (聖路加国際大学)、浅川麻里 (堺市立総合医療センター)、尾原晴雄 (沖縄県立中部病院)、鈴木康之 (MEDC) ほか

日時：7月21日(金)13:00～17:00・22日(土)9:00～12:00 (7時間)

概要：臨床研修が必修化して10年以上が経過し、研修事務職員の役割はますます重要になってきています。書類作成、データ管理等の事務的業務だけでなく、研修医や指導医に対する様々な支援の役割を担っています。このワークショップでは、全国の臨床研修事務担当者の皆さんにお集まりいただき、研修事務職員の役割と課題について討論し、先進事例や業務に役立つノウハウについて学び、卒後臨床教育の充実をめざして連携の輪を作ってゆきたいと思えます。また、カナダでは年に1度全国の臨床研修事務担当者が集まってワークショップを開催しており、その内容も紹介いたします。

対象：臨床研修病院 (大学病院、一般病院) の研修事務担当者、研修プログラム責任者、指導医

定員：30名

WS-3 臨床の場ですぐに活かせるフィードバック・スキル

TL

企画：前野哲博 (筑波大学) ほか

日時：7月22日(土)9:00～12:00 (3時間)

概要：医療職の教育において、OJT (On the job training) における教育効果を高めるために、フィードバックが重要なことは言うまでもありません。そのためのスキルとしては「フィードバックサンドイッチ」や「マイクロスキル」などの方法が知られていますが、単にマニュアル的に会話を構造化するだけでは、現状にフィットしなかったり、不自然な会話になったり、何より紋切り型のパターン化した対応を学習者に見抜かれてしまい、かえってモチベーションを下げることもなりかねません。今回のワークショップでは、まず、フィードバックの基盤となる指導者の関わり方について考えます。次に、多忙な現場で適切なフィードバックを行うために、情報をどう集め、改善を図るポイントをどう選び、それをどう建設的に伝えるのか、という実践的なポイントを学ぶ体験型のワークショップにしたいと思っています。医師以外も含めて、すべての職種の方の参加をお待ちしています。

対象：全職種

定員：40名

WS-4 医療現場での電話相談・報告 : スタッフの「苦手意識」を克服しよう

TL

企画：小西恵理 (松江赤十字病院)、阿武茉莉 (鳥取大学)、嶋岡 鋼 (国際医療福祉大学塩谷病院)、赤嶺陽子 (長野県立病院機構)、布原佳奈 (岐阜県立看護大学)

日時：7月22日(土)9:00～12:00 (3時間)

概要：臨床現場では日常的に患者に関する情報伝達が行われていますが、電話による相談・報告は緊急度が高い場面で用いられることが多いうえ、コミュニケーション手段が言語に限られるため、情報を緊急度を含めて正しく伝えるには困難を伴います。本ワークショップでは、医療チームのための情報伝達ツール「ISBAR」をもとに、学生を含めたすべての医療チームスタッフに活用可能な電話相談・報告教育コースの開発を目指します。松江赤十字病院で行っている研修医・看護師対象の教育コースとその成果も紹介します。

対象：医療チームコミュニケーション教育に関心のある方すべて

定員：20名

WS-5 “アクティブ・ティーチング”で学習者を惹きつけろ！

TL FELLOWSHIP

企画： 西城卓也・今福輪太郎（MEDC）、西屋克己（関西医科大学）

日時： 7月22日(土)13:00～17:00・23日(日)9:00～12:00（7時間）

概要： 「研修生のやる気を出させることまで指導者の仕事なのか」「積極性のない学生にどう対応するのか」等、学習者の学び方に関して様々な議論がなされています。学習者を受動的から能動的に、依存的から主体的にするためにはどうしたらいいのでしょうか。アクティブ・ラーニングという概念は新しいものではありませんが、学習者をアクティブにするティーチングは常に開発されています。世の中において自分で変えられるものは、過去ではなく未来、他人ではなく自分です。学習者がアクティブになることを目指して、明日からの自分のティーチングを変えましょう。今回は、アクティブ・ティーチングの知見を踏まえつつ、超実践的セッションでアイデアを出し合います。

対象： フェロシッププログラム2017モジュール1参加者に限定しており、一般の参加者は受け付けておりませんのでご了承下さい。

WS-6 症例検討会による行動科学・社会科学の教育：医療人類学の場合

TL

企画： 錦織 宏（京都大学）、飯田淳子（川崎医療福祉大学）、島蘭洋介（大阪大学）、宮地純一郎（浅井東診療所）

日時： 7月22日(土)13:00～17:00・23日(日)9:00～12:00（7時間）

概要： 平成28年度に改訂された医学教育モデル・コアカリキュラムにおいて、「医療に関係のある社会科学領域」が新しく記載されました。日本医学教育評価機構による認証評価でも必須とされる行動科学・社会科学は、臨床現場に出るまで重要性が理解されにくいため教養教育では伝えにくく、また社会科学者の多くは臨床現場の文脈に、現場の臨床医は社会科学に精通しておらず、臨床医と社会科学者の間の連携が課題とされています。このワークショップでは、これまで我々が医療者・人類学者協働で行ってきた症例検討会による教育経験を共有したうえで、「臨床と結びつけて医療人類学を教えるにはどうすればよいか？」という問いについて考えたいと思います。また質的研究という側面に焦点を当てて医療人類学と医学教育のコラボレーションについても議論します。なおこの企画は主催者の研究活動の一環として行いますので、当日、研究参加への同意をお願いする予定です。

対象： 行動科学・社会科学の教育に関わる医学部/医療系学部教員、行動科学・社会科学の教育に関心のある医師・医療者、医学・医療者教育に関心のある行動科学・社会科学研究者

定員：40名

WS-7 第13回 医学教育研究技法ワークショップ「医療者教育の研究を立案してみよう」

R

企画： 日本医学教育学会 教育研究委員会

日時： 7月22日(土)13:00～17:00・23日(日)9:00～12:00（7時間）

概要： 質の高い研究を行うためには、研究を始める前に、目的を明確にし、十分に準備し、適切な方法を選択することが不可欠です。本ワークショップでは、医学・医療者教育分野の研究を始めようとしている方を対象として、参加者の皆さんが抱えている関心を持っている研究テーマについて研究計画をそれぞれ報告していただきます。その上で、目的の明確化、先行研究に基づきリサーチクエスチョンや仮説の設定、適切な研究方法の選択、倫理的配慮などに向けて、タスク・参加者と共に議論し、個々のニーズに合わせて研究計画をブラッシュアップすることを目標とします。

対象： 医療者教育研究を計画している方、関心のある方

定員：18名

WS-8 看護における模擬患者参加型教育をデザインする

：SPを活用したシナリオ作成からリフレクションの方法まで

ML

企画： 阿部恵子・麦島健一・米谷祐美・本田育美・淵田英津子（名古屋大学）

日時： 7月22日(土)13:00～17:00・23日(日)9:00～12:00（7時間）

概要： 新人看護師のコミュニケーション能力など看護実践力の低下が指摘されています。医学科では、OSCE導入から10年以上経ち、模擬患者（SP）との医療面接やシミュレーション教育が拡充し、その効果が報告されています。看護では、人的資源不足や経済的事情により、卒前教育では、学生同士のロールプレイによる演習が多くを占め、SP参加型演習は限定的実施に留まっています。本ワークショップでは、SPの意見を反映させたシナリオの作成とリフレクションの方法を学び、模擬演習を経験します。ファシリテータである教員や看護師が、SPの生活者としてのフィードバックを資源として、学生から気づきを引き出すリフレクションこそが学習効果を高めます。経験だけで終わるのではなく、その経験から学んだことの概念化までを目標とした実習をデザインします。初心者から上級者まで積極的に参加でき、現場に持ち帰って実践できるリフレクション方法を提供します。卒前教育の新たな教育方略としての一助になれば嬉しいです。2日間楽しく学び合いをしましょう。

対象： 看護領域のコミュニケーション教育に興味のある教員、看護師、SP養成者、SP

定員：30名

WS-9 専門医の質ってどう測るの？：医療現場での評価

A

企画： 日本医学教育学会 卒後・専門教育委員会

日時： 7月22日(土)13:00～17:00（4時間）

概要： 日本の高い医療の質は、内科や外科などの基本領域とサブスペシャルティ領域の専門医が支えています。その医療の質には、Structureの質・Processの質・Outcomeの質があると云われています。これまでの専門医はProcessを重視してきましたが、Outcomeの質（専門医が実際に質の高い医療を行っているか）を示すことは不得意だったかもしれません。

専門医制度の行方は不透明ですが、そんな今だからこそ、医療の質を保証するひとつの方法として、医療現場での専門医（専攻医）のパフォーマンス評価について考えてみることは重要です。

このワークショップでは、誰もがあまり体験していない医療現場での評価について知り、学会での現状の評価法を振り返り、実際にそれぞれの診療科で自身が導入する過程を体験してみることで、パフォーマンス評価の重要性と課題について学びます。

対象： 専門研修の制度構築・専攻医指導に関わる方、専攻医、初期研修医、医学生

定員：30名

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2017年 7月9日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円 学部学生無料

懇親会費： 3,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
参加費は、当日資料ならびに第65回医学教育セミナーとワークショップの報告が掲載されている「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。
(学部学生への送付はありません)

会場： 岐阜大学医学部 教育・福利棟／医学部記念会館
(〒501-1194 岐阜市柳戸1-1)

JR岐阜駅9番のりば C70系統バス

岐阜大学病院バス停（終点）または柳戸橋バス停（終点の1つ手前）で下車

